

杉沢

L
一九八三年六月二日

国道三九九号線ぞいの稲子部落を過ぎて少し進むと、小さな杉沢橋に着く。この橋のたもとから遊行を開始するが、沢幅は狭いし兩岸も低く平らな為、どうも沢登りという感じがしない。

何の変哲もない小沢を中程までつめた頃、突然目の前をカモシカが逃げていった。カモシカの方もこんなところで人間に会うとは思っていてもなかっただろう。

この先は、次第に水量も少なくなり、兩岸の木が生い茂ってトンネルのようになってきたので、一〇時二〇分、遊行を打ち切って、出発点に

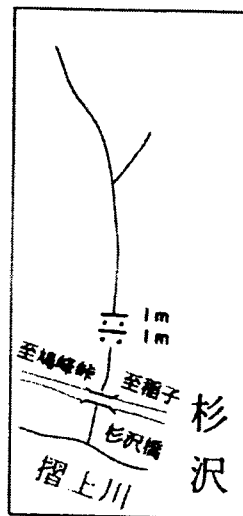
戻る。結局、最後まで滝の一つもなく、春の小川といった感じの沢であった。
(記・杉沢)

後沢下流部

L
一九八五年七月二日

落合橋から遊行を開始する。河原を進んでゆくと、すぐに板谷沢の出合に着く。後沢の方がいくらか水量が多い。このあたりの木々は、いたる所に収穫調査周測の表示がされている。いずれ、伐採される運命にあるようだ。

「タイム」 杉沢橋(八・五五) ↓ 遊行
中止点(一〇・二〇) ↓ 杉沢橋(一一・三〇)



依然河原歩きが続く。途中、広々とした杉の造林地が現われる。七年生くらいの木のような。元にもどるにはあと何年かかるのだろうか、気の遠くなる話である。

一五時五五分、遊行を開始して一時間一〇分で七ヶ宿に至る道路に出